

久米地区寿会連合会の活動状況

- 一月一日 『久米寿号(第一二二号)』 発行
- 一月十二日 『久米地区どんど焼き』に『三世 文化交流活動』で参加
- 二月二十四日 久米地区寿連 単位会長会議
- 二月三日 輝きクラブ周南女性委員長研修会に二名参加(於徳山社福センター)
- 二月五日 久米地区文化祭実行委員会
- 二月十四日 輝きクラブ周南徳山支部理事会
- 二月十八日・二十五日(計二回) 久米小三年生の『木工工作』授業に指導協力(久米小学校にて)
- 二月二日 『天神山の草刈り』(久米婦人会 主唱)に協力参加
- 三月十日 『久米寿号(第一二三号)』編集会議
- 三月十一日 輝きクラブ周南徳山支部理事会
- 三月十四日 久米地区社会福祉協議会理事会
- 三月十六日 『久米地区文化祭』(久米地区社 協他共催)に協力参加(久米公民館にて)
- 三月二十四日 『グラウンドゴルフ初心者講習会』を開催
- 三月二十七日 『久米地区寿連親睦グラウンドゴルフ大会』開催

自然の恵み

(その一 陸上)

中寿会 野村克行

平成二十六年一月発行の『久米寿号第一二二号』で筆者が少年(主として昭和二十年代)の頃、海・山を駆け巡って取って食べたことについて述べましたが、それがどのようなものか知りたいという要望があり、この度はこれについて述べてみます。

食べたものは、陸と海に分けて述べますが、学者ではないので名前は方言混じりであり、分類もい加減なものであることをご承知おき願います。

陸と海のものを含めると、百二十種を超えます。

1. 陸

(植物)

- ・木の实「椎、萱、ぐみ(六月頃・晩秋)、牛の乳山桃(いら・普通・みず・白)、しゃしゃぶ、山栗、山柿、山桜、松
 - ・きのこ「松茸、椎茸、こうぞなば、くろたけ」
 - ・いちご「赤二、黄一」
 - ・蔓の実等「野葡萄、アケビ、かしわ餅の葉の実、山芋、ぬかこ」
 - ・筍「破竹、真竹」
 - ・植物の芽他「わらび、つわ、蔞、芹、すいば、タラの芽、つばな、蒞」
- (動物)
- ・雀、ひよ鳥、山鳩
- 計 四十種

短歌・川柳

上南寿会 石田教枝

やまのまに軒を寄せあう集落の
ろう梅かおる朝の目射しに
春めきて日ざしほのけき境内の
梅の小枝に花芽ふくらむ

清花

笑う人ばかりいて心はずむ
消費税上げてニタニタ裏街道

くめ・ひばり

足もとの小さき花で春をしる
ばあーばあーとだきつく孫に目がうるむ

楽老

わが寿命薬とサプリで支えられ
悔い多しリセットボタンはないかいな



ツバキ



スイセン



ウメ

子供達との木工教室

東寿会 松岡 豊



四十五年間の長い間、自動車の修理の仕事に携っていた私ですが、十年前より病気に侵され、体力に多少の不安があるものの、一年に一度行なわれる久米小学校三年生の児童との木工教室を楽しみにしています。今年で四回目の参加になりますが、毎年素直で明るく元気な子供達と物作りが出来るとてもうれしく思っております。わずか一時間半という短い時間ではありますが、我れを忘れ品物作りに没頭しています。

子供達は三・四人のグループに分かれ、そのグループの中に私達寿会のメンバーも加わって作品作りの手助けを行うのですが、各子供達が作成した設計図に従って進めていくと、中には子供の力では難しい作品もあり、少しでも子供の作りたい作品にしてやりたいと、私の手にも力が入ります。

釘一本打つにしても、又鋸を使って板を切る事も、まだ三年生の子供達には難しい様です。でも、苦勞して何かを完成させる喜びを味わう事は大切な事だと思えます。出来上がった時の子供達の嬉しそうな顔を見ると、私まで嬉しかなり満足感にひたります。

これは私の提案なのですが、材料に似合った統一した設計図を子供達に書かせるのはどうでしょうか。そうする事によって最初から「出来ない」と言う子供がいなくなるのではないかと思えます。

これから先も元気でいる限り、私の余生の楽しみのひとつになっていく事でしょう。

散歩中に子供達に出会うと、大きな声であいさつをしてくれ、可愛い笑顔が見られます。

いつも私に、パワーをくれて、本当にありがとう。



東福祉館の児童とのふれあいの途中で

東寿会 中村美代子

年齢を重ねるにしたがい、家からあまり出なくなり、人とのふれあひも少なくなりがちな人も多くなった。今ですが、東寿会では、ふれあひ行事の一つとして、東福祉館の子供達と(年十回位)ふれあひをしています。資源物の回収、積み込み、これが資金になるのですが、みんなで力を合わせてワイワイ、ガヤガヤ……。十月は、ふれあひグラウンド・ゴルフをしました。我々老人も童心に帰り、日頃あまり出すこともなくなった大きな声を出し、子供目線で走りまわり、笑い、おながが痛くなる程でした。子供達のお陰で一年分の笑いを貰った思いました。児童館の子供達 ありがとう 感謝 又よろしくね。

もらった縁を

「ありがとう」

上南寿会 山田定子

久米小学校に、娘二人と孫二人が通学しました。孫のお世話で学校へよく出入りしており、ある日、吉松校長先生から、本のおよみかかせの依頼があり、これがご縁で十年が経ちました。

私の本のおよみかかせの原点は、慶応生まれの祖父の膝の温もりです。ふるやのもり、赤と白と黒のお話などです。久米小で本のおよみかかせをして一年を過ぎ、一番感動したことは、現在中学生になっている児童が、ここの本にある「はるのゆきだるま」の紙芝居をつくり、私一人のために表現してもらったことです。

これからも本のおよみかかせを続けようと、学校側によみかかせをする人を募集してもらい現在十二人になっています。



遊びとは、「気持ちのゆとり・余裕」という子供心に学んだことが、時代の変遷とはいえあまりにも人間を縛りつけている様に思います。はじめて小学校の校門をくぐると、莫大の広さの運動場にびっくりした記憶があります。今、久米小学校の運動場が耐震工事のため縮小されているので、学校側も遊び場確保に苦慮しておられるようです。

先日学校側から、二十六年一度一年間、昼休みの遊びについて依頼があり、年間プログラムを提出しました。今のところ水曜日、三十二回位あります。内容は伝承活動を主に考えました。一緒に遊んでもらえる方を歓迎しております。

最近のニュースで、交通事故で亡くなられた場面を見て、仏教でいう四苦八苦を思い出しました。四苦に「愛する者との別れなければならぬ苦しみ」という事を痛感しています。生きにくい世の中であるのは確かです。しかし、楽じゃない人生だから、人は楽しむ工夫をしなくてはなりません。自分を生かしてもらえぬ社会・地域の多くの縁に感謝しております。

炉辺夜話(十三)

中寿会 片岡 基

何年前の春先の頃だったか?、横浜の旧友をたずねるべく、早朝に家を出て徒歩十分のバス停まで坂本川沿いに行く途中、カルガモ夫婦、セグロセキレイ、コサギ、キセキレイ、近くの田んぼにツグミ、天神山の木立にヒヨドリ、スズメ、ウグイス(声だけ)など八種類の野鳥に出会ったという話をして飲み友達に大いに羨ましがられたことがある。

それは坂本地区の隈々(くまぐま)の湿地や堤からしみ出た水が合わさりながら流れ下り、四キロ程先の末武大橋下手で末武川に合流する、実に細々とした坂本川のおかげだと思った。小流と言えど、それなりに数多くの野鳥や小魚や水棲の昆虫幼虫を養い、生物多様性に立派に貢献している訳だ。

しかし気になるのは、昨今、所々で行われている護岸?工事で坂本川がU字型側溝に姿を変えつつあることだ。市役所の河川工事担当者は、施工にあたり現状有姿の保存(保全)という発想(考え方)はないのであろうか。坂本川ばかりでなく周南市には工事対象箇所が無数にあると思うが、特に郊外里山地域の河川工事については、コンクリートU字型溝を埋めるという単純安易に走ることなく慎重に取り組んでほしい。技術的には日本全国、ひいては世界全体(特に英国の田舎)を見渡せば、多分、参考になる事例がいくつでもあるのではなからうか。一度、姿を消せば再生不能の自然である。目先の効率ではなく、長期的視野、大局的見地からいろいろと検討立案してほしいと切に々々思うものである。(平成二十六年三月十二日 記)

柚子湯

田中院内寿会 井上隆雄

「柚子湯は冬至の日、柚子の実を刻んで入れた浴湯。ひびやあかぎれを治すという」と広辞苑に記されている。

私の柚子湯は、柚子以外に、すだち、橙、レモンも代用している。十月頃から寒い日の風呂は柚子湯であれば徐々に黄色に色付いてくる。

柚子、すだちは二月下旬頃までに実が落ちる。その後はレモンと橙を、四月末頃まで利用する。というところで一年の半分は柚子湯に浴している。五年くらい前から続けている。青いみかん、八朔、甘夏柑も試したが、香り、酸味が少なく効かない気がした。(使用する量を増せば良いかも)

一回に使う量は、柚子、すだちはピンポン球より小さければ二個、それ以上は一個、レモンは一個、橙は大きいので半分を使う(以前一個使ったら肌がヒリヒリしたことがあったため)ことを目安にしている。ところが、今シーズン橙一個を使用したのが肌がヒリヒリしない。あと二年足らずで後期高齢者となる身として肌の感度が鈍くなったのか?と思っている。

実はいづれも水平二つ割りにし、湯に入れ握りつぶす。種や果肉が浮くがおかまいなしで入浴している。畑の周囲に本柚子二本、花柚子、橙、すだち、レモン、キンカンが各一本あり、これが材料となっている。柚子湯の効果は、風呂上りの湯冷めが遅いことは実感しているところである。今年はずいぶんキンカンを試そうと思っている。